

Ⅱ 幼児教育・小学校教育の円滑な接続のために



富山県幼児教育センター
幼児教育スーパーバイザー

新夕 佳子

内容

1 幼保小接続が重要視されるようになった背景

- ・ 非認知能力の育成の重要性
- ・ 小学校学習指導要領等の改訂の基本方針



2 円滑な幼保小接続のために知っておきたいこと

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- ・ 「架け橋期」と「幼保小の架け橋プログラム」
- ・ 「学びの芽生え」と「自覚的な学び」



3 「学びの芽生え」を育むために



4 幼保小が協働してつくる架け橋カリキュラム

- ・ 幼児教育は、小学校教育へどのようにつながるのか
- ・ 幼児期の遊びを、小学校以降の学びにつなげていくために



1 幼保小接続が重要視されるようになった背景

1 子供をめぐる環境の変化

- ・ 家庭や地域の生活の中からの学びや経験の減少・・・どこかで補填が必要

2 AI（人工知能）の普及、グローバル化

- ・ 子供たちが社会を担う20年後を想定・・・

様々なものを使いこなす力、

グローバルな社会に適応する力の教育が必要

3 答えが見つかっていない問題・先の見えない社会

- ・ 環境問題、少子高齢化等、簡単には解決できない様々な問題が山積・・・

みんなで協力して、新しい解決策を探っていくような

「新しい知性」を育てる必要

* 幼児教育の重要性が認識。多くの国が幼児教育に力を入れている。

日本も同様。（幼児教育に関する法令の改訂等）

* 幼児期における、遊びを通しての非認知能力

（社会情動的スキル）育成の重要性も。

非認知能力（社会情動的スキル）の育成の重要性

◎ 認知能力

文字や数など、数値化しやすく結果が分かりやすい能力

◎ 非認知能力

「好奇心・粘り強さ・協力する力・気持ちを切り替える力」

のような、身に付いているかどうかが分かりにくい、

生きていく上で大事になる能力…

「生きる土台となる力」「後伸びする力」「生涯の学びを支える力」

ともいわれる。

* ジェームズ・ヘックマン教授の研究（ノーベル経済学賞受賞）

- ・ 乳幼児期に非認知能力を育むことが、
大人になってからの幸福度や経済力にまで影響を与えるほど重要なもの

* OECD（経済協力開発機構）調査でも

非認知能力（社会情動的スキル）の育成の重要性について注目

⇒世界に影響を与えた

非認知能力育成の場として

- ◎ **認知能力も非認知能力もどちらも大事！**
両方の能力が支え合うことが大切

* **非認知能力**は、かつては家庭や地域の生活の中で育てていたが、生活環境が変わり、育ちにくくなっている。

⇒ **幼児期から小学校低学年の間で重点を置いて育てる**

非認知能力の育成の面からも、
幼児教育と小学校教育の接続が重要視されている。

Ex 幼児が文字を習得すること

- ・ 大好きな友達に手紙を出したい。
- ・ お店屋さんにお客さんを呼ぶための看板を書きたい。

*** 非認知能力が土台**になっている。

小学校学習指導要領改訂の基本方針



1 今回の改訂と社会の構造的変化

2 何ができるようになるか... 育成を目指す資質・能力

(1 知識及び技能 2 思考力、判断力、表現力等
3 学びに向かう力、人間性等)

3 主体的・対話的で深い学び

4 カリキュラム・マネジメント

5 具体的な教育内容の改善・充実

6 初等中等教育の一貫した学びの確立と 子供の発達の支援

7 学習評価の充実

8 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策



小学校学習指導要領総則編第3章第2節「4 学校段階等間の接続」より

小学校入学当初においては、幼児期において
自発的な活動としての遊びを通して育まれてきた
ことが、各教科における学習に円滑に接続されるよう

生活科を中心に、
合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定等、
指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

- ・ ・ ・ 全国のすべての小学校が生活科を中心に「スタートカリキュラム」を編成し、実施する。
- ・ ・ ・ 現在は、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを一体として捉え、「架け橋カリキュラム」として作成するようになってきている。

2 円滑な幼保小の接続のために知っておきたいこと

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

すなわち

「児童期の始めに発揮できる姿」



「幼児期にここまで育っているのだから、
小学校ではそれを受けて、
ここからさらに育て伸ばしていこう」

という発想

* 幼児期から教育は始まっている。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 1 健康な心と体
- 2 自立心
- 3 協同性
- 4 道徳性・規範意識の芽生え
- 5 社会生活との関わり
- 6 思考力の芽生え
- 7 自然との関わり・生命尊重
- 8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 9 言葉による伝え合い
- 10 豊かな感性と表現



「学びの芽生え」と「自覚的な学び」

遊び込む幼児から

夢中になって学ぶ児童へ

学びの芽生え(幼児教育)から

自覚的な学び(小学校教育)へ



学びの芽生え…幼児教育の場

夢中になって遊び込んでいる姿

学ぶことを意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことに集中することを通して、さまざまなことを学んでいる。

ex お店屋さんでの水遊び

学びの芽生え

➡ 教科につながる



(例) 「お店屋さんの遊び」

どんな「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見えますか？

- ・ ○○ちゃん○個も取ったの？すごい！私は○個。
- ・ 水って冷たいところとあったかいところがあるね。もっと冷たくしたい。
- ・ お店屋さんが分かるように看板を作ろう。
- ・ みんなが喜ぶお面やおもちゃを作りたい。
- ・ 小さい子が喜んでくれるように、分かりやすく教えてあげたい。
- ・ いくつぐらいボールを入れたらみんなが楽しめるかな？



- ・ たくさんボールを取りたい。
どうやったらうまく取れるかな。
- ・ ボールが固まっちゃった。
広げたいから誰か手伝って。

幼児教育を受けて

自覚的な学び・・・小学校教育の場

楽しく必然性のある活動・・・学習のめあて

+

教科書を使用し、

遊び感覚で夢中になりながら

主体的に学ぶ姿

自覚的な学び

(例 がっこうたんけん)

- 知っている字を見つけてこよう。
書いてみよう。
- お部屋がいくつあるか数えてみよう。
他にも数えられるかな？
- 見つけたものを紹介しよう。
(絵 等)
- 体育館で遊ぼう。



「学びの芽生え」を育むために 幼児教育についての誤解

✕ 幼児教育は小学校教育の前倒し

読み書き計算、長時間、椅子に座っての学習に終始するのは、
幼児教育ではありません。

✕ 幼児は単に遊んでいればいいという発想

「遊びの中の学び」についての保育者の正しい理解と支援が必要です。

✕ 教育（学び）は、小学校からスタートする

遊びを通して育つ幼児期の「学びの芽生え」を、
小学校に正しく伝えましょう。

4 幼保小が協働してつくる 「架け橋期のカリキュラム」

- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 幼保小の先生が、気軽に話し合える関係の構築
- 書類上はまとめられているが、
具体的な取組が進まないという批判
- ICTやオンライン等の活用
- 持続的・発展的な取組
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を
手がかりとして、家庭や地域も一緒に

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）

関係者で共有し大切にしていきたい視点 より

主体的・対話的で深い学びの実現

幼児が遊びに没頭している（遊び込んでいる）とき、
そこには「主体的・対話的で深い学び」があります。

手引き（初版）P37より

*この写真から、どんな「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」
が見て取れるでしょう？



主体的・対話的で深い学びの実現

幼児の遊びが発展していくために、どんな援助が考えられますか？...砂山づくりを例として考えてみましょう。

• 主体的な学びへの援助

...幼児自身が「やりたい」と思って取り組んだり、見通しをもって根気強く取り組んだりできるように。

• 対話的な学びへの援助

...一人の遊びから仲間でのあそびに広げるために。

...幼児同士の対話を上手に仲介し、発展させていくために。

• 深い学びへの援助

...「なぜかな?」、「こうしてみたらどうかな?」、「どうやったらいいんだろう?」などの思考が入り、追究が深まっていくような活動にしていくために。



幼保小の先生が気軽に話し合える関係の構築

「手引きの参考資料」p8、9（七夕製作）の事例から

◎ 園と小学校の先生が、 一緒に活動を振り返り話し合う

- 「自分でできることをやってもらっている幼児にとっての交流の中での学びは何か（交流会では全員がお世話される側の印象）」
- 「幼児が考える余地があれば・・・
時間の使い方やどの製作をするか見通しがもてる。」

話し合いを通して

- ⇒子供たち同士の交流を大事にするため、子供たちがつくり上げようとする世界をもっと大切にする。
- ⇒先生は、1年生に「～してください」などの指示を控え、何をどれだけ作るかも子供たちに考えさせた。

幼児教育は、小学校教育へどのようにつながるのか

- ◎ 遊びを通した豊かな経験や体得から
生まれるもの（感覚）を大切に



* 小学校における、教科学習での本質的な理解や習得につながる。

（例えば...）

算数での足し算や引き算のひっ算

- 一桁の足し算、引き算が基本
- 足したら増える、引いたら減るという

経験を通した感覚

幼児期の遊びを、 小学校以降の学びにつなげていくために

◎ 「砂場の水遊び」

- ⇒ 小4理科 雨水の行方と地面の様子
地面の傾きによる水の流れ、土の粒の大きさと
水のしみこみ方
- ⇒ 小5理科 流れる水の働きと土地の変化
流れる水の働き、川の上流下流と河原の石
雨の降り方と増水

(幼・保・こでは)・・・砂場の水遊びを通して

- 水をしみ込ませないで流したい。水を溜めたい。
...どうやったらいいのだろうと試行錯誤する姿
- * 「水は流れる」「水はしみ込む」「土によってしみ込みやすいところと
そうでないところがある」というような、
遊びを通しての気づきが生まれる環境設定を考える。

◎ 「影いみ遊び」

⇒ 小3理科 太陽と地面の様子
日陰の位置と太陽の位置の変化
地面の温かさや湿り気の違い

⇒ 中3理科 天体の動き
太陽の一日の動き、星の一日の動き
天体の一日の動き

(幼・保・こでは)・・・影踏み遊びを通して

*いつ、どこでやるかの違い。

午前と午後。日向と日陰。

*遊びながら、太陽の位置や暖かさとの関係に、
身体を通して気付けるような言葉かけや

環境づくりを。

小学校以降の学びにつなげるために

- ◎ 幼児期にどれだけ豊かな学びをしたか、それを小学校でどう生かしていくかが大切。
- ◎ 小学校以降へのつながりを認識して架け橋期の保育や教育を行う。（教科書等で見通しをもつことも）
- ◎ 幼保の保育者と小学校の教員がともに参観し、研修し、学びの接続について共通理解を図りながら、日々の教育活動に取り組む。